

## 南アフリカ為替週報

2022年6月2日 | みずほ銀行欧州資金部

&lt;過去1週間の動き&gt;

(5月26日～6月1日)

USD/ZAR: 15.4500～15.8600

ZAR/JPY: 8.02～8.36 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルでは上昇先行後、反落、反転上昇と上下動し、振り返って明確に水準を切り上げた。対円ではほぼ一方的な上昇を続け、やはり水準を切り上げた。ランド側に決定的な要因は見当たらず、対ドルでの推移はドルの上下動を、対円での上昇はこの間の円安基調を、それぞれ反映した値動きと考えられた。ドル安の先行は、米株価の低迷(実のところ、米株価は26日以降、底値を抜け出した感があった)や米経済指標(26日の米第1四半期GDP改定値や27日のミシガン大学5月消費者マインド指数など)の下振れなどを受け、米景気後退、米スタグフレーションなどに対する警戒感が高まったことが材料視された。並行してドル/円は横ばい推移を続けたが、これを、「円がドル並みに軟調だった」と受け止めることもできただろう。30日以降、ドルが反発に転じると、円は全面安に。この局面、米連銀ウォラー理事が0.5%ポイント幅の追加利上げ継続に積極的な姿勢を示した(30日)一方、黒田総裁(30日)、若田部副総裁(31日)ら日銀首脳が、円安けん制や利上げに消極的な発言を繰り返したことが、それぞれの通貨に対照的な影響を及ぼした。1日のランド上昇はランド全面高で、なにかしら南ア固有の要因の存在が疑われたものの、これといって決め手となるような要因は見定められなかった(後述)。更にその後、発表された米経済指標(ISMの5月製造業景況感指数)の上振れを受けてドルが全面高に。ランドも対ドルでは急反落した。

&lt;過去1週間に発表された主要経済指標等&gt;

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/30	12:00	財政収支(ZAR)	4月	-45.2bn		-37.2bn
5/31	6:00	民間部門信用(前年比)	4月	+5.99%	+5.68%	+5.92%r
	9:30	失業率	Q1	34.5%	35.4%	35.3%
	12:00	貿易収支(ZAR)	4月	+15.5bn	+20.2bn	+47.2bnr
6/1	11:14	自動車販売統計(前年比)	5月	+2.1%	+4.4%	+4.3%

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

&lt;向こう1週間の見通し&gt;

(6月2日～6月8日)

USD/ZAR: 15.450～15.750

ZAR/JPY: 8.20～8.45

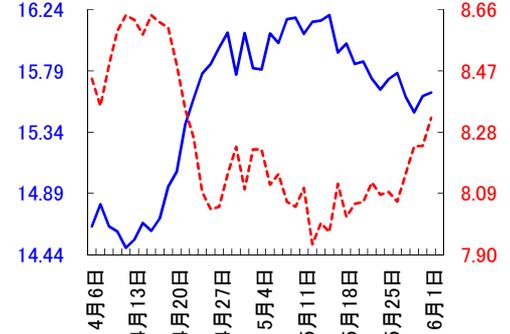
向こう1週間の南ア・ランド相場は、方向感のつかめない横ばいを予想。上述の通り、この間のランドの値動きのほとんどはドル側の要因、円側の要因によるもので、ランド固有の要因に関しては、めぼしいものは見当たらなかった。敢えて挙げるなら、31日の南ア4月貿易収支の明確な下振れは(引き続き黒字ではあったものの)、失望を買う数字と言えただろうか。もっとも、既にドル反発が明確に進んでいた局面で、ランドの反応は明確には読み取れなかった。1日のランド反発も、市場の一部では、前日(31日)発表された南ア財務省による燃料税控除の2ヵ月間延長を「好感」したなどと解説されたが、一時的な燃料物価抑制、僅かばかりの消費下支え、財政負担拡大(45億ランド)などが、どういう理屈でランド押し上げに貢献したのかも腑に落ちなければ、16時間以上も前の決定にランドが反応を示したというも間の抜けた話。また、1日には、公務員労組との賃金交渉で、政府が従来の据え置き(0%)提示から今年+4.5%に提示を引き上げたが、これも、交渉の進展=ストライキ回避と読めば好感できたかもしれないが、物価や財政への影響は負の要因と読めた。材料が交錯、或いは意味不明なのは、主要通貨でも同じで、31日に発表されたユーロ圏5月CPI速報値の上振れは、ユーロ加盟国国債だけでなく、米国債の利回り上昇を招いたが(南ア国債も)、何故か広くドル反発要因として受け止められた。「相場なんてそんなもの」と言ってしまうばそれまでだが、足元相場の値動きに(円安を除いて)、少なくとも自分自身腑に落ちるような解説ができない以上、目先の方向感を展望するにあたって、納得のいく見通しを語るのには難しい。

&lt;向こう1週間に発表予定の主要経済指標等&gt;

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/7	6:00	総外貨準備高(USD)	5月			60.28bn
	9:30	GDP(前年比)	Q1		+1.7%	
6/8	9:30	企業景況感指数	5月			95.6

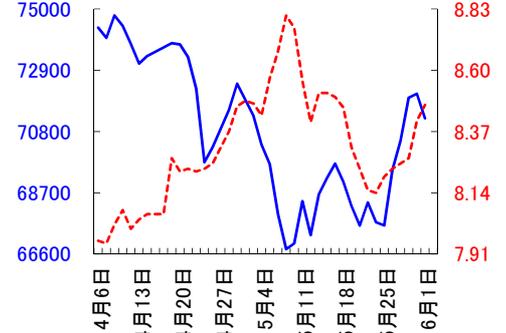
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.75%
長期金利(10年スワップ)	6月1日	8.470%
株価指数(JSE全株)	6月1日	70849.38
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q1	34.5%
消費者物価(前年比)	4月	+5.9%
小売売上高(前年比)	3月	+1.3%
製造業生産(前年比)	3月	-0.8%
鉱業生産(前年比)	3月	-9.3%
貿易収支(ZAR)	4月	+15.5bn
金価格(ロンドン17:00)	6月1日	1845.77

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。